

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年4月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1570301778
法人名	社会福祉法人 上越市社会福祉協議会
事業所名	グループホーム安塚やすらぎ荘
所在地	新潟県上越市安塚区和田616番地子 (電話) 025-592-3002

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 21年 2月 22日

【情報提供票より】(21年 1月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 7人、非常勤 1人、常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階 建ての 2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1ヶ月あたり		30,000 円	

(4) 利用者の概要 (21年 1月現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2		2名	
要介護3	3名	要介護4		2名	
要介護5	1名	要支援2		0名	
年齢	平均 85.5	最低	78歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安塚診療所、ゆきだるまクリニック、飯原歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧安塚町の中心部の和田地区に位置し、上越市合併前の平成16年3月に小学校の跡地を利用して開設された。デイサービスやショートステイ、居宅支援事業所等が併設されており、地域の総合施設として介護サービスを提供している。周辺には田畑が広がるのどかな環境である。グループホームは建物の2階に位置し、9名の利用者が入居し、明るく楽しく、会話と笑顔が絶えない。畑作りをしたり、皆で山菜採りに出かけるなど、山間地域の生活習慣を大切にしながら日常生活を送っている。今後も、地域の自然を活用したり、地域住民との関係づくりを大切にしながら、地域福祉の発展に貢献していくことが期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な改善課題に向け、前向きに取り組んだ。「地域とのつきあい」では、畑や散歩に出かけて地域の人と交流したり、地域行事へ参加するなどし、地域とのつきあいが多くなってきている。「居心地よい居室環境づくり」では、居室の入り口にのれんを掛けることにより、利用者自身が自分の居室であると認識できる一助となった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に評価表を配布して自己評価を実施し、管理者がまとめ、職員同士で話し合いながらホームとしての自己評価を作成した。日ごろの振り返りとして活用し、項目ごとに確認することで改善できることを見出し、実践している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回、ホームの活動報告、行事の案内などを主な内容として開催している。利用者や家族、行政、地区代表の人たちなどが参加しており、ホームの現況や活動、行事などについて話題提供することにより、参加者がそれぞれ日頃考えていることが意見として出され、ホームの運営に反映されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族等の面会時は職員から積極的に声をかけ、意見・要望を聞く機会とするほか、廊下のスナップ写真を見ながら話をしたり、一緒にお茶を飲んで過ごしたりと信頼関係を構築するように努めている。苦情対応については、重要事項説明書に内容を明記し、また、利用者、家族等が意見・要望を表出しやすいように意見箱の設置もしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や外出等、日常的に地域に向かいにいけるよう支援している。近くの畑では野菜をつくっており、利用者と地域住民とが自然に声をかけ合い交流する機会となっている。桜見物、七夕祭り、秋の収穫祭等の複合施設全体の行事に地域の方を招いたり、保育園の園児やAのボランティアとの交流なども行っている。また、事業所の隣にある高齢者活動促進施設「安塚ほのぼの荘」に立ち寄り近隣の方々と一緒にお茶飲みを楽しむなど、利用者が地域の一員として地域住民と触れ合えるよう支援している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念をもとに、事業所独自の理念「和」を掲げ、おもいやり・まごころ・明るい笑顔を大切にすることとしている。地域との「和」も大切に、地域住民との交流にも積極的に取り組んでいる。		今後、法人全体の理念の見直しが予定されている。法人理念との整合性を踏まえて、事業所としてもより地域密着型サービスを意識した理念へと見直しを図り、実践に向けてさらに取り組んでいくことを期待したい。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念を復唱して意識付けしたり、利用者同士の関係性、利用者と職員の関係性、家族や地域との関係性における「和」について管理者と職員とが話し合いながら、日々理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	ホーム便りに理念を記載し、ホームが大切にしていることを家族や地域自治会に周知している。ホーム便りの名も理念と同じ「和」とし、覚えてもらえるようにしている。ホーム内にも理念をわかりやすく掲示し、来訪者に見てもらえるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や外出等、日常的に地域に出向いていけるよう支援している。近くの畑では野菜をつくっており、利用者と地域住民とが自然に声をかけ合い交流する機会となっている。桜見物、七夕祭り、秋の収穫祭等の複合施設全体の行事に地域の方を招いたり、保育園の園児やAのボランティアとの交流なども行っている。また、事業所の隣にある高齢者活動促進施設「安塚ほのぼの荘」に立ち寄り近隣の方々と一緒にお茶飲みを楽しむなど、利用者が地域の一員として地域住民と触れ合えるよう支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員はサービス評価の意義や必要性を理解しており、外部評価での第三者から見たホームの改善点を前向きに捉えていこうという姿勢がある。今回の自己評価も職員全員で記入し、項目ごとに客観的に日々のケアについて振り返り、ミーティングで話し合いながら改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催している。利用者や家族、市の職員、自治会、民生委員、地域包括支援センター職員等が参加し、活発な意見交換が行われ、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員から運営推進委員、入所判定委員として参画してもらい、サービスの質の向上に向けて意見を頂いている。また、利用者が受けた市の健康診断の結果について、市の保健師が来て本人へ説明してくれる機会もある。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する市主催の研修会には積極的に参加している。高齢者虐待関連法などもマニュアルとして配布し、日々の利用者との会話や対応などでも、尊厳を大切にしたい関わり方ができているかを心がけ、職員同士で注意し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等は定期的に家族に報告している。また、2ヶ月に1回ホーム便りを送付して様子を報告したり、ホームの行事や活動に家族も招待し、様子を見てもらう機会としている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は可能な限りサービスに反映したいと考えており、特に面会時には、何でも言っていたきやすい雰囲気づくりを心がけている。複合施設全体で意見箱を設置したり、第三者委員や複合施設全体の責任者等にも相談できる体制など、ホーム職員以外の窓口も設けている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、常に職員に声をかけ、意見や提案を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。また、月例会議や毎朝のミーティングなど、意見交換や提案の場が設けられている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	複数の事業所を有する大きな社会福祉法人であるが、人事異動は必要最小限に抑え、利用者や職員の馴染みの関係が保たれるように配慮している。新しい職員が来た場合にも、引き継ぎ等をしっかりと行い、利用者のケアに影響が出ないよう配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	各種マニュアルは整備されていて、職員に周知されているが、必要に応じた見直しや変更、追加などが速やかになされていない状況がある。		ホームや利用者の実状に合わせたマニュアルへと適宜見直しや変更、追加などの整備がなされることで、さらなるマニュアルの活用へとつなげていくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人である上越市社会福祉協議会全体や安塚支所内、ホームなどの内部研修や、外部研修の機会など、組織を活かした職員育成の仕組みがある。資格取得を職員に積極的に働きかけており、資格を有している職員からアドバイスや指導を行う機会もある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複合施設全体で、近隣の他事業所との研修会や交流が図られている。また、外部研修に参加したり、近隣のグループホームとの情報交換や見学等を行い、交流している。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者、管理者、計画作成担当者は日常的に職員の意見や要望を聞き、職員が考えていることが実現できるよう取り組んでいる。職員同士のコミュニケーションも密であり、小さなことも注意し合える関係が作られている。休憩室も整備され、また、親睦会等を通じてコミュニケーションを図り、ストレスの軽減に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前には本人と家族からホームを見学してもらう機会を設けている。ホームの機能の説明などを行い、本人の希望や思っていることを聞きながら、家族等とも相談して雰囲気馴染めるように支援している。また、併設のショートステイやデイサービス利用を経て入居されるケースもあり、馴染みの関係づくりに活かされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人や家族等から、どんな暮らしをしたいか、過去の経験や好み、習慣などの情報を得るように努め、本人を主体として料理、掃除、畑づくり、手芸などの得意なこと、好きなことを見出して支援している。職員は、一方的に介護するだけにならないよう、本人にどう関わるかを考えながら、関係づくりをしている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	管理者、職員ともに、積極的に家族等と会話をし、過去の経験や苦労した話を聞き、情報を得るように努めている。家族と一緒に利用者を支えていきたいということを伝え、個々の家族の要望や思い、状況に合わせて協力をお願いし、信頼関係を築いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日頃の会話の中から表情の変化や仕草を捉え、また、家族からも情報を得て、本人の思いを把握するよう努めている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の今までの暮らしをより深く把握するため、センター方式の課題分析表を活用している。入居前のほか入居後にも、本人や家族等から生活の様子や仕事の経験、趣味などについて聞き取りを行い、ホームの生活に活かすようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は日々の暮らしの中で利用者のやりたいことや希望を聞くことを大切にしており、それぞれの職員がカンファレンスで意見を出し合い、情報を共有して介護計画を作成している。家族からも、面会時等に本人の状態や出来事を話して要望を聞き、計画に反映している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には1年に1回見直し、その他状態変化があった場合等随時の見直しが行われているが、見直しに至るまでの評価や検討、本人・家族の意向確認等の過程が明確にされておらず、記録等も十分ではない。また、ケア内容の変更等があった場合、それを反映した新たな介護計画の作成が速やかに行われない場合があり、ホームとしても課題であると認識している。		介護計画見直しの過程や検討内容、結果を本人、家族等とも共有できるように記録の整備をしてほしい。また、心身の状態変化に応じた支援内容、対応等を反映した介護計画の更新を速やかに行うことを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、受診や買い物、畑作り等の支援を可能な限り行っている。また、ホーム入居前に併設のデイサービスやショートステイを利用していた場合、そこで馴染みの関係となった職員や利用者ともホーム入居後も引き続き交流ができるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がそれぞれ希望する医療機関へかかれるよう、ホームでも必要に応じて受診支援を行っている。近くにある協力医療機関からは定期的な往診及び急な病状変化の際の緊急往診が受けられる体制があり、医師は介護に関する相談にも応じてくれる。受診の結果は家族と情報共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状の医療との連携体制や、ホームでできること・できないことを踏まえて、重度化した場合や看取りにおいてホームでの対応は困難な場合があることを家族に説明している。本人の状態変化等の状況を踏まえて家族・医療機関と早期に話し合い、特別養護老人ホームへの移行も視野に入れて、本人・家族にとってより良い支援方法を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導はさりげなく行ったり、朝のミーティング時は話の内容が利用者に聞こえないようにするなど、利用者の誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応をしている。個人記録等の保管場所・管理方法についても周知徹底が行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活の違いを理解し、本人がしたいことや自発的に行う活動に合わせて一日を過ごせるよう支援している。職員は、その人の生活ペースを優先する関わり方を考えながら対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の献立・アドバイスを参考にしながら、事業所の畑で採れた季節の野菜を使ったり、漬物や煮物等利用者に馴染みのある郷土料理なども取り入れて、ホームの献立を作成している。利用者の状況に応じて食事作り、食器洗い、後片付けと一緒にいき、食事も利用者と一緒に食べ、楽しい食事となるよう支援している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに基づいて個々に応じた排泄の支援がなされている。できるだけ自分の力や習慣を活かして、トイレで気持ちよく排泄できるように見守りや誘導を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	旧安塚町の小学校跡地に総合施設として開設した為、浴室はショートステイ、デイサービス利用者と共用であるが、利用者の希望する時間帯や曜日に入浴できるよう他サービスとの調整を図っている。また、リラックスして入浴を楽しめるよう、入浴時は利用者と一緒にコミュニケーションをとるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のできることや趣味、特技を活かして生活できるように支援している。草木を育てることを喜びにしている人や料理の好きな人、畑が好きな人など、日々それぞれに応じた楽しみや役割の支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の散歩や日光浴などは、天候を見ながらその都度声をかけ、希望に応じて実施している。冬季以外は利用者と共に畑に出かけて野菜を作っており、地域の人との交流の機会にもなっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自分達の介護方法を振り返り、より良い介護が提供できるよう、身体拘束や虐待の定義や具体的な行為について職員間で確認し合い見識を深めている。しかし、現在、転倒防止の危険性が高く、家族とも相談してやむを得ず4点柵をしている利用者がおられる。		やむを得ない状況での4点柵の使用であり、家族からの同意の手続きもとられている。しかし、拘束廃止に向けた経過記録や検討が定期的には実施されていない状況があるので、身体拘束をしないケアに向けた具体的な検討・対策の実施が望まれる。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず自由に出入りできる。外に出かけようとされる様子の利用者には見守りながら同行するなど、鍵をかけないケアを実践している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットの事例を多く収集して活用し、様々な状況に応じての対策や行動マニュアルを策定し、職員間で確認しあいながら事故防止に向けて取り組んでいる。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	職員は消防署の行う救急法の講習会に出席し、急変時に備えている。また、全職員を対象に、応急手当の方法や救急救命に関する知識などの研修も定期的に行われている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	消防署や防災業者、地域の方々の協力のもと、年2回の避難訓練を実施している。災害時にすぐに駆けつけてもらう地域協力員も確保されている。防災用品や食材の備蓄、スプリンクラーの設置もされている。		夜間帯を想定した避難訓練の実施が十分ではなく、ホームとしても必要性を認識している。職員が手薄になる夜間帯については、対応方法や訓練の徹底がより重要であるため、非常災害時に備えて今後定期的にも実施してほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じて利用者一人ひとりの食事量を記録し、水分量も把握している。個々の状態や習慣に応じて量や形態を検討し、また、食事をおいしく摂ることができるように季節の食材も献立に取り入れている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は、テーブルやソファ、テレビの前のコタツなど複数の居場所づくりがされており、利用者が思い思いの場所で落ち着いて過ごせる環境となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れた家具、調度品が持ち込まれている。時計や家族の写真を置いたり、壁にカレンダーや利用者自身の作品を飾るなど、利用者個々の希望や好み、趣味等を活かした居室づくりを支援している。</p>		